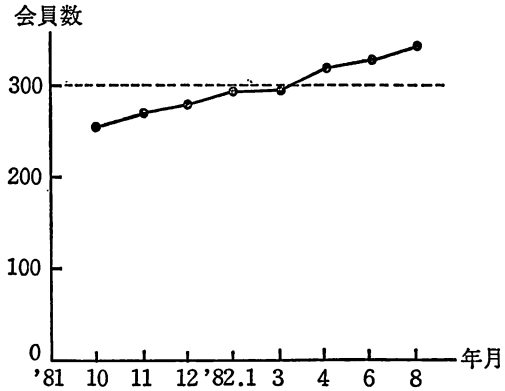
学会記事

3年目を迎えた「日本生涯教育学会」は質的充実を目指して成長しつつあります。以下ご報告申しあげます。

(1) 会員数300名をこえる



'81.10. 267名
11. 277名
12. 285名
'82. 1. 292名
3. 297名
4. 308名
6. 317名
8. 321名

なお，今年度から「機関加入」が認められ，第1号として玉川大学通信教育部が加入。法人会員は2団体あります。

(2) 理事会の報告

理事会では，年報の内容，シンポジウム・課題研究など学会を代表する問題について時間を割いて検討を加え，順次決定してきました。関東在住の理事による常任理事会を，青山学院大学において下記の日に開催しました。

第14回　1981年11月10日(火)5:30pm，第15回　12月21日(月)5:30pm，第16回　1982年1月19日(火)5:30pm，第17回　3月9日(火)5:30pm，第18回(1982年度に入る)　4月20日(火)5:30pm，第19回　5月18日(火)5:30pm，第20回　6月14日(月)6:00pm，第21回　8月6日(金)6:00pm，第22回　9月6日(月)3:00pm，第23回　10月19日(火)6:00pm。

(3) 第3回学会大会の開催

11月12日(金)，13日(土)の2日間，国立教育会館にて開催。シンポジウムのテーマは「生涯教育と学校教育」。課題研究は「社会の中の教育人材活用」と「学校開放の現状と課題」。

(4) 年報第3号の刊行

特集テーマ「生涯教育と学校教育」。学会大会時に刊行。会員からの投稿論文が多く，編集委員会が審査にうれしい悲鳴をあげた第3号です。会員の投稿希望がますますふえることを願っています。

(5) 研究会の開催

従来の研究会は「公開研究会」という形式で，国立教育会館で行ってきました。会員以外の市民の参加者を加えて8回という回数を重ね，社会に寄与してまいりました。

そこで，従来の経験と諸般の事情を考慮して，第9回からは日本生涯教育学会「研究会」という形で会員に主眼を置いた性格のものにして，今後は開催していくことにしました。そして内容的に深めていくことを考えています。

しかし，外部に対して全く閉鎖的になるものではなく，会員以外の方の参加をも歓迎いたします。年に3～4回開く予定です。

第9回　1982年9月6日(月)　青学会館　6:00pm

辻功氏（筑波大学）「資格」，菊池汎子氏（横浜市婦人会館）「教育人材の活用」の話題提供のあと，出席者の間で有益な討議が行われました。

(6) 地区活動の活発化

これまで北海道地区だけであった地区研究会に九州と島根が加わりました。特に九州は日本生涯教育学会九州支部としての誕生です。それぞれ独自のテーマで研究会活動が行われています。また，2月には栃木県立唐沢青年の家で，数回にわたり日本生涯教育学会ゼミナールが開かれ，反響を呼びました。

(7) 学会だより

号数もふえてきましたが，より一層の充実を考えています。地区研究会の活動報告などのおたよりを事務局ではお待ちしています。「学会だより」には研究会のお知らせ，寄贈資料の紹介，新入会員の紹介を逐次行っています。

なお，新入会員が大幅にふえましたので，来年度に新たに会員名簿を発行する予定です。住所・勤務先などに変更があった場合は，お早目に事務局へご連絡くださるようお願いいたします。

(8) 科学研究費による研究の発足

昭和57年度から59年度にわたる3か年の研究が以下のように始まりました。

- 研究代表者：辻功（筑波大学）
- 研究協力者：日本生涯教育学会会員約20名
- 研究課題：日本の生涯教育実践の類型化に関する実証的研究
- 研究実施計画

① 都道府県レベルの主として施策とその実施状況を中心とした生涯教育実態調査を行う。

② 企業内教育に関しては，全国調査を実施し，企業の規模別に企業内訓練等の実態を明らかにする。

③ 上記①，②については調査結果を多次元尺度構成法などによる多変量解析を行い，類型化する。

④ 諸外国の生涯教育関係文献の収集を行い，日本の生涯教育と比較する。これには，比較教育学の研究方法を導入する。

なお，以上の成果は大会等において逐次発表する予定です。

（稲生勁吾，渡辺一久）